

令和7年4月14日

前年度の改善方策について実行した改善結果

世田谷区立二子玉川小学校
校長 今福 眞和

1、学習指導について

タブレットをはじめとする ICT 等の活用については、校内OJTや伝達研修によりスキルを教員一人一人が身に付けている。ロイロノートを活用した授業は日々の授業に浸透し、児童も使いこなして学習効果を高めている。「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」という設問においては、保護者アンケートの肯定的評価は微増だが年々上昇傾向にある。しかしデジタルと同時に、手書きや板書など、アナログな学習方法も軽視することなく学習のベースとして確実に指導する。

2、生活指導について

生活指導アンケート項目については、児童、保護者共に微増、微減はあるものの、安定した水準を維持している。「先生に注意されたことは、理解できる」項目は93%の肯定的評価であった。本年度特に子どもたちとの丁寧な対話を常に心掛けて指導に当たってきた。指摘されたことをしっかりと受け止めて、次の行動に活かしてく姿勢を身に付けてもらうために、教員と子どもたちの信頼関係をしっかりと作り上げてきた成果でもある。

3、教職員について

児童アンケート「先生たちは、ていねいに指導してくれる」項目は近年、児童、保護者共に90%前後の安定した評価を得ている。多くの教職員が教育活動に熱心に取り組んでいることへの理解をいただいたことは励みとなり、さらなる指導の充実につなげることができる。

4、学校からの情報提供について

一時期、学校からの情報提供については肯定的評価が低い傾向にあった。昨年度より学校だより、ホームページ、スグール配信、学校公開、保護者会を駆使して情報の提供と共有に一丸となって努めてきた。この2年間は「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子がわかる」項目肯定的評価94%超と高い評価を得た。学校の教育活動を理解してもらうためにも広報活動は欠かせない。今後もより一層の情報発信に努めていく。

5、特色ある教育活動について

本校の特色ある教育活動『愛鳥活動』や『クリーンタウン作戦』等への肯定的評価は93%超である。長年の取組がしっかりと根付いていることの表れでもあり、今後も前向きな気持ちをもって活動に臨むことができる。